



日本スポーツマスターズ

SPORTS MASTERS JAPAN



日本スポーツマスターズの概要



日本スポーツマスターズとは

シニア世代のスポーツ愛好者の中で、競技志向の高い人たちを対象とした日本初・唯一の総合スポーツ大会で、参加者はおよそ2つのカテゴリーに分かれます。

- スポーツクラブ、チーム等で日常的、継続的にスポーツに親しんでいる選手
(→この人たちにとっては日本スポーツマスターズは「自己の技量を試す場」となります)
- オリンピック、国際大会、国民体育大会等で活躍したアスリート
(→この人たちにとっては日本スポーツマスターズは「セカンド・ステージ」となります)

日本スポーツマスターズ開催概要

開催時期：毎年1回秋季（9～11月頃）

会 期：5日間（開会式1日、競技会4日間）

実施競技：水泳,サッカー,テニス,バレーボール,バスケットボール,自転車競技,

(13競技) ソフトテニス,軟式野球,ソフトボール,バドミントン,空手道,ボウリング,ゴルフ

参加資格：日本在住者とする。選手の年齢は原則として35歳以上とし、競技ごとに定める。

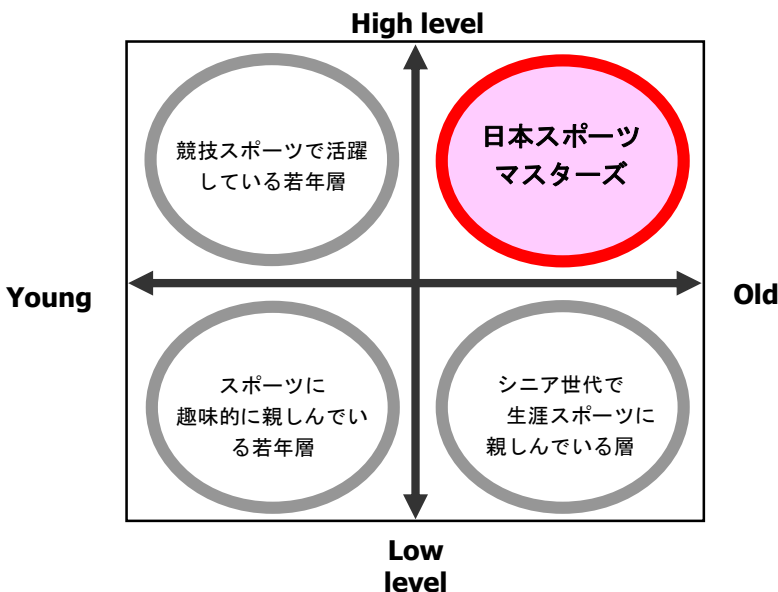
参加人員：大会には選手・役員等合計で約15,000人が参加予定（スポーツ教室等参加者含む）

主 催：日本スポーツ協会、開催地都道府県(開催地が政令指定都市である場合は、当該政令指定都市及び当該政令指定都市が所在する都道府県)、開催地都道府県体育・スポーツ協会(開催地が政令指定都市である場合は、当該政令指定都市体育・スポーツ協会及び当該政令指定都市が所在する都道府県体育・スポーツ協会)

後援(予定)：スポーツ庁、日本オリンピック委員会、NHK、共同通信社

<背景>

21世紀の国民スポーツの推進を図るには、幼児から高齢者までが生涯を通じて自己の能力や志向に応じた豊かにスポーツを楽しむことのできる環境づくりが必要です。しかし従来は、シニア世代で生涯スポーツに親しんでいる人が自己の技量を試す場はありませんでした。また、かつて競技スポーツで活躍をされた人にとってのセカンド・ステージもありませんでした。「日本スポーツマスターズ」はまさにこうしたエアポケットを埋める21世紀の新しいスポーツの場なのです。（下図を参照）



【魅力】

日本スポーツマスターズは、かつてオリンピックや全日本の選手として活躍したトップアスリートと各地域で日々練習を積み重ねてきた選手が同じ舞台で日本一をかけて戦うことができる大会です。

日本スポーツマスターズの変遷



回	年	開催地	陸上	水泳	サッカー	テニス	バレーボール	バスケットボール	自転車	ソフトテニス	軟式野球	ソフトボール	バドミントン	空手道	ボウリング	綱引	ゴルフ	競技数	人数
1	2001	宮崎	↓	↓	↓	↓	↓	↓				↓	↓	↓	↓	↓	↓	12	5,354
2	2002	神奈川	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓									13	6,063
3	2003	和歌山	↓	↓	↓	↓	↓	↓										13	5,863
4	2004	福島		↓	↓	↓	↓	↓								↓		12	5,817
5	2005	富山		↓	↓	↓	↓	↓		↓								12	6,154
6	2006	広島		↓	↓	↓	↓	↓	↓									13	6,658
7	2007	滋賀		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,308
8	2008	高知		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,347
9	2009	静岡		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,644
10	2010	三重		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,703
11	2011	石川		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,850
12	2012	高知		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,904
13	2013	北九州		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,670
14	2014	埼玉		↓	↓	↓	↓	↓										13	8,265
15	2015	石川		↓	↓	↓	↓	↓										13	8,106
16	2016	秋田		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,538
17	2017	兵庫		↓	↓	↓	↓	↓										13	8,957
18	2018	札幌		↓	↓	↓	↓	↓										13	7,603 ^{*1}
19	2019	岐阜		↓	↓	↓	↓	↓										13	8,610
20	2020	愛媛		↓	↓	↓	↓	↓										13	*2
21	2021	岡山		↓	↓	↓	↓	↓										13	*2
22	2022	岩手		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	13	
23	2023	福井																13	

※2012から日韓スポーツ交流・成人交歓交流韓国選手団参加のため、韓国選手団の人数を含む。

*12018は、9/6に発生した平成30年北海道胆振東部地震の影響により水泳を除く12競技を中止したため、9/6時点での参加エントリー数を記載。水泳競技会（9/1・2開催）の参加者人数は812名。

*22020・2021は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止したため、参加者人数については未記載。

日本スポーツマスターズ開催地



回	西暦	年号	ブロック	開催地	会期	競技数	参加人数 (選手・監督等)	会期前競技会
1	2001	平成13年	九州	宮崎県	9/21～25	12	5,354	
2	2002	平成14年	関東	神奈川県	11/8～12	13	6,063	
3	2003	平成15年	近畿	和歌山県	9/19～23	13	5,863	自転車競技27日(土)～28日(日) ゴルフ競技18日(木)～20日(土)
4	2004	平成16年	東北	福島県	9/22～26	12	5,817	
5	2005	平成17年	北信越	富山県	9/22～26	12	6,154	ゴルフ競技20日(火)～22日(木)
6	2006	平成18年	中国	広島県	9/15～19	13	6,658	ゴルフ競技19日(火)～21日(木)
7	2007	平成19年	近畿	滋賀県	9/14～18	13	7,308	ゴルフ競技18日(火)～20日(木)
8	2008	平成20年	四国	高知県	9/19～23	13	7,347	ゴルフ競技24日(水)～26日(金)
9	2009	平成21年	東海	静岡県	9/18～22	13	7,644	ゴルフ競技16日(水)～18日(金)
10	2010	平成22年	東海	三重県	9/17～21	13	7,703	ゴルフ競技13日(月)～15日(水)
11	2011	平成23年	北信越	石川県	9/16～20	13	7,850	水泳競技8月27日(土)～28日(日) ゴルフ競技14日(水)～16日(金)
12	2012	平成24年	四国	高知県	10/19～23	13	7,904	ゴルフ競技17日(水)～19日(金)
13	2013	平成25年	九州	北九州市	9/13～17	13	7,670	水泳競技7日(土)～8日(日) ゴルフ競技11日(水)～13日(金)
14	2014	平成26年	関東	埼玉県	9/19～23	13	8,265	水泳競技8月30日(土)～31日(日) ゴルフ競技17日(水)～19日(金)
15	2015	平成27年	北信越	石川県	9/18～22	13	8,106	水泳競技8月29日(土)～30日(日) ゴルフ競技16日(水)～18日(金)
16	2016	平成28年	東北	秋田県	9/23～27	13	7,538	水泳競技17日(土)～18日(日) ゴルフ競技7日(水)～9日(金)
17	2017	平成29年	近畿	兵庫県	9/15～19	13	8,957	水泳競技9日(土)～10日(日) ゴルフ競技13日(水)～15日(金)
18	2018	平成30年	北海道	札幌市	9/14～18	13	7,603 ^{*1}	水泳競技1日(土)～2日(日) ゴルフ競技12日(水)～14日(金)
19	2019	令和元年	東海	岐阜県	9/20～24	13	8,609	水泳競技8月31日(土)～9月1日(日) 空手道競技14日(土)～16日(月) ゴルフ競技11日(水)～13日(金)
20	2020	令和2年	四国	愛媛県	9/18～22	13	^{*2}	水泳競技5日(土)～6日(日) ゴルフ競技9日(水)～11日(金) 自転車競技11日(金)～13日(日)
21	2021	令和3年	中国	岡山県	9/17～21	13	^{*2}	水泳競技8月28日(土)～29日(日) ゴルフ競技9月8日(水)～10日(金) 空手道競技9月11日(土)～13日(月)
22	2022	令和4年	東北	岩手県	9/22～26	13		水泳競技9月3日(土)～4日(日) ゴルフ競技9月7日(水)～9日(金)
23	2023	令和5年	北信越	福井県				

※2012から日韓スポーツ交流・成人交歓交流韓国選手団参加のため、韓国選手団の人数を含む。

*2018は、9/6に発生した平成30年北海道胆振東部地震の影響により水泳を除く12競技を中止したため、9/6時点での参加エントリー数を記載。水泳競技会(9/1・2開催)の参加者人数は812名。

*2020、2021は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止したため、参加者人数については未記載。

日本スポーツマスターズ開催地支出経費

開催費予算5,000万円～7,000万円

内容 歓迎のぼり、懸垂幕等装飾費(ホスピタリティ経費)
競技会場借上げ費(会場設営費を除く)
大会PRイベント経費
開会式経費の一部
ポスター・パンフレット等印刷製本費

競技団体、開催市町村運営補助費
旅費(先催県大会視察等)
会議費
通信運搬費 等

日本スポーツマスターズ参加者の傾向



シニア世代のスポーツ愛好者の中で、日本スポーツマスターズの参加者は2つのカテゴリーに分かれています。

- 日常的に、継続的にスポーツに親しむ、競技志向の高い選手
⇒ 自分の技量を試す場として、大会に参加しています。
- オリンピックや国際大会、国民体育大会等で活躍した元トップアスリート
⇒ シニア世代のトップを目指し、大会に参加しています。

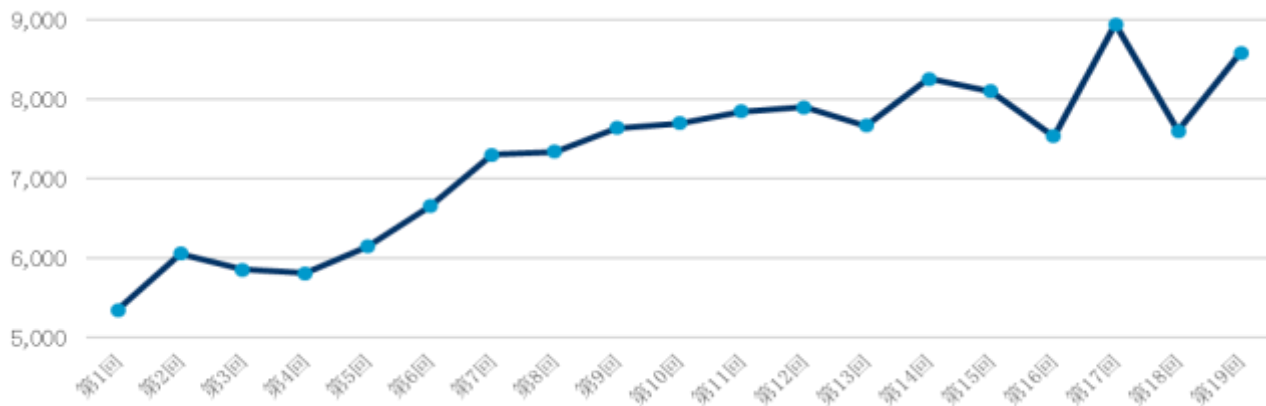
2001年から始まった日本スポーツマスターズは、シニア世代のスポーツ愛好者が目指す大会として定着し、参加者は増加傾向にあります。

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
開催年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
開催県	宮崎県	神奈川県	和歌山県	福島県	富山県	広島県	滋賀県	高知県	静岡県	三重県	石川県	高知県
参加者数	5,354	6,063	5,863	5,817	6,154	6,658	7,308	7,347	7,644	7,703	7,850	7,904
回数	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	
開催年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
開催県	北九州市	埼玉県	石川県	秋田県	兵庫県	札幌市	岐阜県	愛媛県	岡山県	岩手県	福井県	
参加者数	7,670	8,265	8,106	7,538	8,957	7,603* ¹	8,610	* ²	* ²			

※2012年から日韓スポーツ交流・成人交歓交流韓国選手団参加のため、韓国選手団の人数を含む。

*¹ 第18回は、9/6に発生した平成30年北海道胆振東部地震の影響により水泳を除く12競技を中止したため、9/7時点での参加エントリー数を記載。水泳競技会（9/1・2開催）の参加者人数は812名。

*² 第20回・第21回は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止したため、参加者人数については未記載。



日本スポーツマスターズの特徴



シニア世代の大会の特徴として、大会開催県（含、政令指定都市）における経済効果があげられ、各大会における経済効果の平均額は、**約7億6,300万円**と計算されています。

また、日本スポーツマスターズの開会式は、形式的な「開会式」ではなく、シニア世代の大会ならではの、出場選手・役員（約1,000人）の交友を深め、さらには開催県の魅力・特色を知ることができる場として「前夜祭形式」で実施しています。



<開会式（前夜祭）の様子>

7億円を超える経済効果を生み出す本大会に参加する選手は、競技にかけるモチベーションだけでなく、消費意欲も高い傾向にあります。

開会式会場や各競技の決勝会場に設置される、オフィシャルスポンサーの物販ブース、開催市町村による物販・おもてなしブースでは、毎年、多くの参加者が集まり、大いに盛り上がりを見せています。



<競技会場でのブースの様子>

日本スポーツマスターズ経済波及効果



大会年	開催地	調査機関	経済効果
2001	宮崎県	宮崎県	16億5,800万円
2002	神奈川県	-	データなし
2003	和歌山県	-	データなし
2004	福島県	(財)ふくしま自治研修センター	5億7,300万円
2005	富山県	(財)北陸経済研究所	4億7,979万円
2006	広島県	-	データなし
2007	滋賀県	龍谷大学、びこわ成蹊大学、滋賀県	4億1,000万円
2008	高知県	高知県実行委員会	2億8,000万円
2009	静岡県	-	データなし
2010	三重県	三重県実行委員会	6億7,000万円
2011	石川県	石川県実行委員会	8億5,000万円
2012	高知県	高知県実行委員会	4億7,000万円
2013	北九州市	(株)北九州経済研究所	7億 650万円
2014	埼玉県	-	データなし
2015	石川県	石川県実行委員会	10億4,800万円
2016	秋田県	秋田県実行委員会	約12億円
2017	兵庫県	-	データなし
2018	札幌市	-	データなし
2019	岐阜県	日本スポーツマスターズ戦略プラン プロジェクト調査ワーキンググループ	8億1300万円

平均 約 7億6,300万円

日韓スポーツ交流・成人交歓交流 〈スポーツ庁国庫補助事業〉



1. 事業概要

2002年ワールドカップ・サッカー大会の日韓両国の共同開催決定を機に、幅広い年齢層を対象に各種のスポーツ交流を実施することによって、日韓両国の親善と友好をより一層深め、更には両国のスポーツ振興を図ることを目的として、日本スポーツ協会が1997(平成9)年度から毎年実施している。

2. 事業内容

(1)事業主体 日本:日本スポーツ協会 韓国:大韓体育会

(2)交流形態

日本選手団は、韓国の生涯スポーツの祭典「全国生活体育大祝典」へ、韓国選手団は「日本スポーツマスターズ」へそれぞれ特別参加する形態にて実施している。

(3)実施概要

競技		サッカー 〈男子〉 (19名)	テニス 〈男女〉 (18名)	バレー ホール 〈女子〉 (19名)	バスケット ホール 〈男子〉 (18名)	自転車 競技 〈男女〉 (18名)	ソフト テニス 〈男女〉 (22名)	軟式 野球 〈男子〉 (19名)	バドミントン 〈男女〉 (18名)	ボウリング 〈男女〉 (18名)	本部 役員	合計 人数	
派遣	開催前年度	45名	-	9	-	-	9	9	-	9	9	7	176
	開催年度	124名	19	9	19	18	9	13	19	9	9		
受入	韓国選手団	176名	19	18	19	18	18	22	19	18	18	7	176

【派遣】

- ①派遣対象 成人男女(30歳～70歳) 169名
本部役員 7名
- ②派遣期間 4月～5月の7日間 ※全国生活体育大祝典を中心とした日程
- ③競技 上記9競技
- ④経費・手配 参加料として1人1万円(予定)の自己負担
その他の派遣に関わる下記項目は日本スポーツ協会が手配および負担する。
韓国内での滞在費は国民生活体育会の負担。
- 集合、離散に関わる国内輸送
(但し、自宅から市・県体協が定める集合場所までの経費は自己負担)
 - 集合に伴う前泊(日程上、日本スポーツ協会が必要と判断した場合)
 - 日本-韓国間の渡航(但し、パスポート取得に係る諸経費は自己負担)
 - 海外旅行傷害保険
 - 日本選手団共通ユニフォーム(競技用ユニフォームは除く)

【受入】

- ①受入対象 韓国の成人男女(35歳～ ※日本スポーツマスターズ競技別実施要項に基づく)
韓国本部役員
- ②受入期間 7日間 ※日本スポーツマスターズを中心とした日程
- ③競技 上記9競技
- ④経費 日本スポーツ協会が負担する。

日本スポーツマスターズ2019 ぎふ清流大会 風景

